

あーばんとく

平成14年11月号 (通巻 第63号)
発行: こうべまちづくりセンター
〒650-0022
神戸市中央区元町通4丁目2番14号
こうべまちづくり会館内
電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546
URL: <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

自らの手で自分たちの集会所を！ ～御蔵西地区古民家集会所プロジェクト発進～

<はじめに>

震災により地域がほぼ全焼。現在もお復興区画整理事業の槌音が聞こえる長田区御蔵通5・6丁目地区。今回はこの地区で住民自らが自分たちの集会所を作る、それも市街地に古い民家を移築するというプロジェクトを紹介します。

<なぜ古民家なのか？>

昨年の夏、当地区のまちづくり協議会が、建設後の管理主体となる御蔵通5・6・7丁目自治会と合同で集会所の建設を検討しました。その中で古民家を集会所として利用している事例を知り、古民家のもつ「ぬくもり」が人々の心をひきつけ、地域の人の「拠り所」となることを確信。

いろいろ探した結果、日本海に面した香住町浜安木に建つ築130年という古民家を所有者から譲り受けることになりました。

<どのようにして作業はおこなわれているのか？>

こうなればあとは実行あるのみ。まずは今年の8月2週間かけて古民家の解体作業をおこないました。ここでも「自分たちでできることは自分たちで」という精神を貫きました。

解体作業自体は養父郡の藤原工務店の大工さんに指導も受けましたが、各種調整から材木の運搬・荷上下ろしも含めてすべて御蔵の住民とボランティアでおこないました。ボラ



参加したスタッフ一同

ンティアとして参加したのは大阪工業技術専門学校、神戸工業高等専門学校の学生さんや、震災以降当地区の支援を続けているボランティア団体「まち・コミュニケーション(※)」のスタッフら総勢約60名。

解体作業をおこなった皆さんは、寝袋や毛布などの寝具を持参し、町内にある体育館にて宿泊。また、グループ交代制で食事係を決め、三度の食事やお茶の用

意をはじめ軍手洗い、トイレ掃除など、すべて自分たちの手でおこないました。

こうしたみなさんの頑張りの甲斐あって、解体作業は無事予定どおり終了しました。

また、単に建物を移



瓦も一枚一枚丁寧に

築するというだけでなく香住町の文化・生活まで御蔵に持って帰ろうという発想から、解体作業期間中には、ふれあい喫茶やふれあいコンサート、まち・コミュニケーション主催の「御蔵学校」を開催し、香住町住民との交流も盛んにおこなわれました。

<プロジェクトのこれから>

現在、解体された木材は作業に協力していただいた工務店で保管していただいています。壁土、瓦は建設予定敷地の近くに保管されていますが、壁土は粘りを出すため、水と藁を入れて寝かしています。

今年の末頃から建設作業を開始し、約1年後に完成予定です。

今回のプロジェクトには御蔵の住民やボランティア、アドバイスをしてくれた人などさまざまな協力者も含めて約200名もの人々が関わっています。ボランティアの一人が曰く「集会所建設の段階で既にもう立派な集会所機能をしているのではないか。」

これを読んで興味を持った方にも是非このプロジェクトに参加していただけたらと思います。

※「まち・コミュニケーション」

震災後のまちづくりに市民の立場で携わってきた有志により設立された。復興まちづくりの経験を活かし、地域の持続的なコミュニティづくりを目標としている。御蔵地区には震災後の住宅再建に関わるなどつながりが深い。

(ホームページ)

<http://www.bj.wakwak.com/~m-comi/index.htm>

←今回のプロジェクトの様子が掲載されています

(住宅局地域支援課)

連載 「コンパクトタウンづくり」活動報告

第7回 兵庫南部地域（神戸市兵庫区）

■兵庫南部地域について

兵庫南部地域（人口約25,000人）は、人口の減少と高齢化が進み、市場や商店街のにぎわいが衰えつつあり、地域の産業が沈滞化傾向にあるなど、いわゆるインナーシティ問題を抱える地域です。その一方で、兵庫津ゆかりの史跡など歴史的遺産や日本最大級の兵庫運河、神戸市の発展を支えてきた重厚長大産業の拠点など、まちの資源は豊富にあります。最近では、地下鉄海岸線の開通や2002年FIFAワールドカップの開催地となった御崎公園神戸ウイングスタジアムの整備など、まちは変化しつつあります。

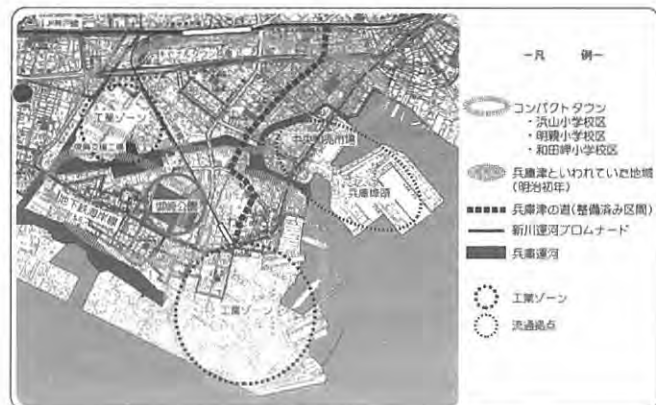


■兵庫区民まちづくり会議

区民まちづくり会議は、まちづくりの実践活動の企画・推進・検討や、区民活動の支援、市政への提言などを行う組織として、平成6年に誕生しました。まちの課題を解決するために、兵庫区民まちづくり会議では、兵庫区のまちの資源を活かし、兵庫区歴史花回道構想の推進、兵庫運河を活かしたまちづくり、兵庫区民まちかどクリーン作戦などの活動を、全区をあげて活発に行っています。

■兵庫南部コンパクトシティ構想

平成13年春、兵庫南部地域のまちづくりの指針として、兵庫区民まちづくり会議がプラン「兵庫南部コンパクトシティ構想」を策定しました。このプランをもとに、兵庫区民まちづくり会議の活動を発展的に継続していくほか、おおむね小学校区単位の地域コミュニティを中心とした住民主体の「コンパクトタウンづくり」を、区民・事業者・行政が連携して展開していきます。こうした取り組みが、区の活性化はもちろん、区の他の地域にも広がっていくことを期待しています。



■第2回「ペットボトルいかだレース」レポート

開削百年以上の歴史を持つ兵庫運河に親んでもらい、リサイクルへの関心を高めてもらうため、兵庫区民まちづくり会議主催による第2回「ペットボトルいかだレース」が8月31日に開催されました。会場となった新川運河キャナルプロムナードには、レース出場者を紹介するステージのほか、地元企業によるリサイクル啓発や行政施策のPRをする展示ブース、兵庫運河の夢を実現する会による地元住民やNPOなどが出店するフリーマーケットや屋台が並び、リサイクルや兵庫の歴史について学ぶ人、ひたすら食べる人、レースに備えてカメラを構える人などで朝早くからにぎわっていました。

さまざまな色・形・大きさのペットボトルをそれぞれ独自の組み方で作りあげた「いかだ」とともに、参加したのは地元小学生を含む約200人。大勢の観客が見守り応援するなか、男女別個人戦、小学生・中学生・地域別の団体戦の合計7レースが行われました。



レース開始前から手づくりの衣装や音楽・ダンス等によるパフォーマンスを繰りひろげるチーム、レース開始直後からいきなり転覆してゴールできずにレースを終えてしまったチームなど、速さを競うレース以外にも見所がいっぱいです。

優勝したチームに共通しているのは、大きなペットボトルや水を入れたペットボトルなどを使って流線型に組みだた「いかだ」のようで、乗り手の善し悪しには関係がない！？とか。必死でいかだを漕いで奮闘した乗り手の皆さんは、レースの勝ち負けに関わらず、爽やかな笑顔を見せていました。

■兵庫運河の夢を実現する会の事務局の小林和弘さんのおはなし

当会（事務局：神戸商工会議所兵庫支部内）は、兵庫運河とその周辺の魅力ある街づくりの実現に向けて実践活動を行うことを目的に発足し、今回、その活動の一環として参加・協力させて頂きました。兵庫区に運河があることは意外と知られていません。これを機に、多くの方々が「兵庫運河」に関心を持って頂ければと期待しています。



（企画調整局総合計画課・兵庫区まちづくり推進課）

“カルチャー・ショック(!?)インドネシア”

—その1「インドネシアという国について」—

1. はじめに

私は2000年7月から今年7月までの2年間、国際協力事業団(JICA)の専門家として(といえる程、大したものでもないのですが、そういう肩書きなので他に表現のしようがありません。悪しからず…)、インドネシアの首都・ジャカルタに派遣されていました。

派遣先はインドネシア政府の居住・地域インフラ省というところで、日本の旧建設省に相当する組織です。そこで、都市計画に関する「技術移転」(大そうなどと思われるかもしれませんが、これまたJICAの用語です)を行っておりました。

今回からシリーズで、インドネシアという国、都市計画や街の様子、インドネシア人の価値観・行動様式等について、思いつくままに書いてみたいと思います。

2. インドネシアという国

まず、皆様はインドネシアという国で何を想像しますか。歴史ではジャワ原人。リゾート地としては、バリ島(が、インドネシアにあるということをご存知でない方も意外と多かったと思いますが、最近のテロで認識もおありでしょうか…)。ちょっと前なら、デヴィ夫人(!?)。そして、昨年秋にアメリカで起きたテロ事件以降は「世界最大のイスラム教徒人口を抱える国」を思い浮かべる方も多いでしょう。

インドネシアは赤道をはさんでその南北に広がる世界最大の群島国家です。国土は東西約5,100kmで、これはアメリカ合衆国の幅に相当します。総面積は200万km²弱で、日本の約5.5倍です。大小合わせて16,000ほどの島々のうち、約3,500の島に人が住み、人口は2億人を超えています。これは世界で4番目になります。

国民の約90%がイスラム教徒で、民族は300以上あるとも言われ、面積では7%にすぎないジャワ島に人口の約6割が集中しています。



インドネシアの国土規模(米国との比較)

「インドネシア・ハンドブック2000年版」(ジャカルタ・ジャバ・パンクラブ)より
インドネシアが上述のような大国であることを知らない方が意外と多いかもしれませんが、これはインドネシアがASEAN諸国では最も南に位置しており、日

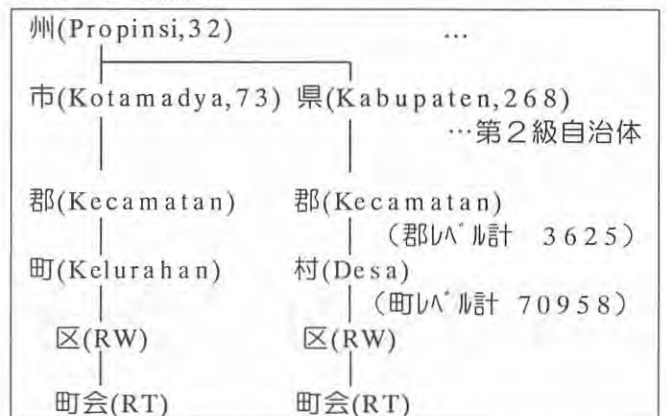
本から少し距離があることに起因するかもしれません。

しかし、第二次世界大戦中、日本がインドネシアを軍政下においてから日伊両国の関係は緊密化し、現在では相互に貿易、経済協力等において重要な相手国となっています。

特に貿易に着目すると、インドネシアにとって日本は、輸出については第1位の相手国であり、輸入も米国と1,2を争う相手国です。一方、インドネシアも日本の輸入において重要な位置を占め、1998年の統計では、米国、中国、オーストラリア、韓国に次いで、第5位の輸入相手国となっており、両国は極めて緊密かつ重要な関係にあると言えます。

3. インドネシアの地方自治体・地方分権

次にインドネシアの地方自治体について紹介したいと思います。その構成は以下のとおりになります(数字は自治体数)。



県は英語のPrefectureにあたる日本のそれとは違い、英語ではRegencyと訳す、市と同レベルのもので、県は村落部の、市は都市部の行政領域に対応します。

第1,2級自治体の下には自治権を有しない郡が設けられ、その下に、都市部には町、農村部には村が設けられます。それらは区(RW, Ilkue)から成り、区はさらに町会(RT, Ilte)で構成されます。なお、RW, RT制度は日本軍政時に導入された隣組制度を、独立後のインドネシア政府が引き続き定着させたものです。

1999年に地方分権関連2法(地方行政法並びに中央地方財政均衡法)が成立し、2001年1月より施行されました。この法により、地方自治体(州・県・市)は、外交、防衛、司法、財政、宗教等を除く全ての権限を有することになりました。

しかし、昨年の法施行以降、地方政府の予算の絶対的な不足、権限委譲の不十分さなどから混乱が見られ、早くも法改正を求める動きがあります。民主化が始まったばかりのインドネシアで、真の地方分権が実現するにはしばらく時間が必要なようです。

若松謙一(企画調整局総合計画課地域政策係長)

舞子かるた原画展



「舞子かるた」は、遺跡などの歴史資源や海、川、緑などの自然資源に恵まれた舞子のまちを知っていただくとともに、子供たちがカルタ遊びを通じて舞子のまちを学び、地域への愛着づくりにつながればとの願いから舞子地域住民（舞子生活文化圏部会）のまちづくりの一環として、地域の小学校と協力して作られました。

カルタの原画は、舞子小学校、西舞子小学校、東舞子小学校の児童が描いています。

開催日時 平成14年11月16日(土)

～12月1日(日)

午前10時～午後6時(水曜日休館)

会場 こうべまちづくり会館ギャラリー

主催：こうべまちづくりセンター・垂水区役所

協力：舞子生活文化圏部会(垂水区区民まちづくり会議)

神戸市教育委員会(舞子小学校、西舞子小学校、東舞子小学校)

抽選で10名様に、
舞子カルタが当たる

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

11月 1日(金)～30日(土)

景観ポイント賞入選作品展

都市計画局アーバンデザイン室

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期間	内容・テーマ	主催者
11月 7日(木)～12日(火)	2002神戸写真会写真展	宮崎 薫
11月16日(土) ～12月1日(日)	舞子かるた原画展	こうべまちづくりセンター 垂水区役所
12月 5日(木)～10日(火)	ぐるうぶ「華を描く」(水彩)	兼吉 淳二

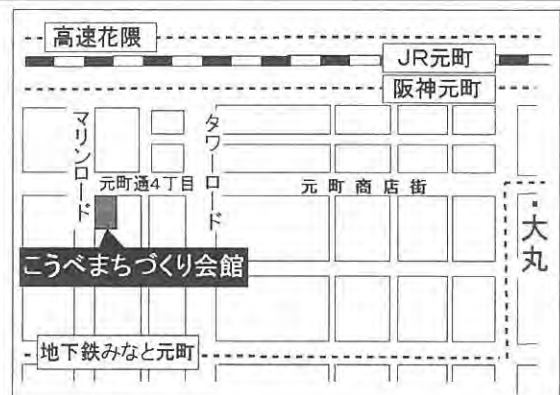
投稿のお願い

まちづくりセンターでは、「あーばんとーく」が読者の皆様の少しでもお役にたてるように、まちづくり協議会が行う地域でのイベントなどの行事案内やまちづくり協議会の活動の記事を募集しています。

誌面の許す限り最大限取り上げていきたいと考えています。

ご希望によっては、取材にお伺いすることもできます。

まちづくりセンター(電話361-4523)までご一報ください。



最寄駅

地下鉄海岸線みなと元町駅西口から1分

高速花隈駅東口から3分

高速西元町駅東口から5分

JR・阪神元町駅西口から8分